NISSAY ASSET MANAGEMENT

週間市場レポート（2022年9月12日～9月16日）

1）先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/9/9	先週末 2022/9/16	前週末比 (%)
日経平均株価（円）	日本	28,214.75	27,567.65	▲ 2.29 ↘
ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）	日本	1,965.53	1,938.56	▲ 1.37 ↘
ダウ工業株30種平均（ドル）	米国	32,151.71	30,822.42	▲ 4.13 ↘
Ｓ＆Ｐ500種指数	米国	4,067.36	3,873.33	▲ 4.77 ↘
ナスダック総合指数	米国	12,112.31	11,448.40	▲ 5.48 ↘
ユーロ・ストックス50指数	ユーロ	3,570.04	3,500.41	▲ 1.95 ↘
Ｓ＆Ｐ/ＡＳＸ300指数	豪	6,884.16	6,728.81	▲ 2.26 ↘
上海総合指数	中国	3,262.05	3,126.40	▲ 4.16 ↘
MSCI AC アジア（除く日本）※		809.98	791.85	▲ 2.24 ↘
東証ＲＥＩＴ指数	日本	2,029.27	2,034.74	0.27 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数	米国	818.13	770.11	▲ 5.87 ↘
ＡＳＸ300 ＲＥＩＴ指数	豪	1,398.50	1,336.20	▲ 4.45 ↘
グローバルＲＥＩＴ（除く日本）※		189.42	180.23	▲ 4.85 ↘
日本10年国債（%）	日本	0.253	0.257	0.004 ↗
米国10年国債（%）	米国	3.310	3.449	0.140 ↗
ドイツ10年国債（%）	ドイツ	1.698	1.756	0.058 ↗
英国10年国債（%）	英国	3.095	3.137	0.042 ↗
ドル/円	米国	142.47	142.92	0.32 ↗
ユーロ/円	ユーロ	143.15	143.22	0.05 ↗
英ポンド/円	英国	165.14	163.18	▲ 1.19 ↘
豪ドル/円	豪	97.58	96.04	▲ 1.58 ↘
フィラデルフィア半導体指数		2,721.77	2,563.14	▲ 5.83 ↘
ＷＴＩ原油先物（ドル）		86.79	85.11	▲ 1.94 ↘
ＣＲＢ指数		284.12	278.88	▲ 1.85 ↘

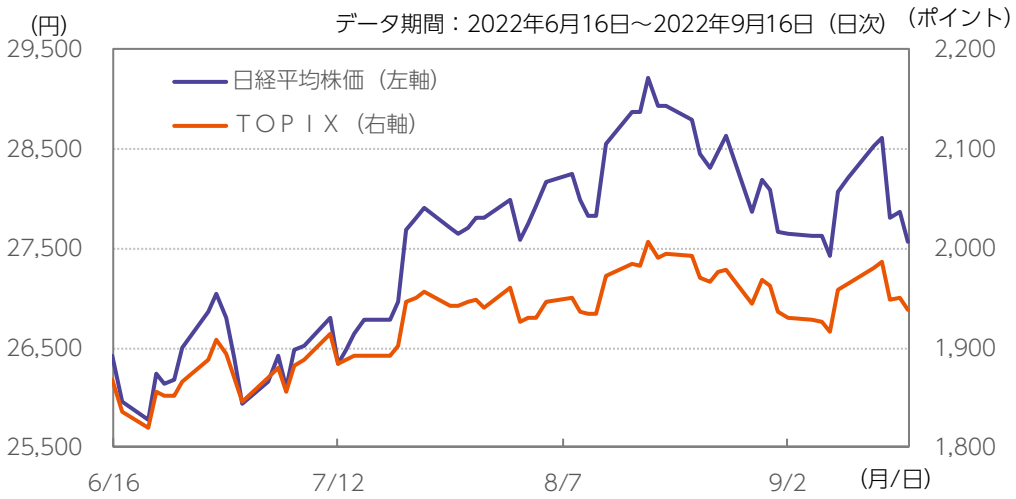
出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース　＊ ▲はマイナスを表します。

2）日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。

政府が新型コロナウイルスの水際対策の緩和を検討しているとの報道を受け、インバウンド（訪日観光客）需要の回復期待から週初より上昇し、13日（火）は８月26日以来、およそ半月ぶりの高値となりました。8月の米消費者物価指数（CPI）の上昇率が市場予想を上回り、米連邦準備制度理事会（FRB）による大幅な利上げの継続と景気減速懸念が強まると大幅に下落しました。週末にかけて、自律反発狙いの買いが優勢となる場面もあったものの、20～21日に米連邦公開市場委員会（FOMC）を控え、米利上げ加速への警戒感が根強く、週末も安値圏でもみ合いとなりました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。

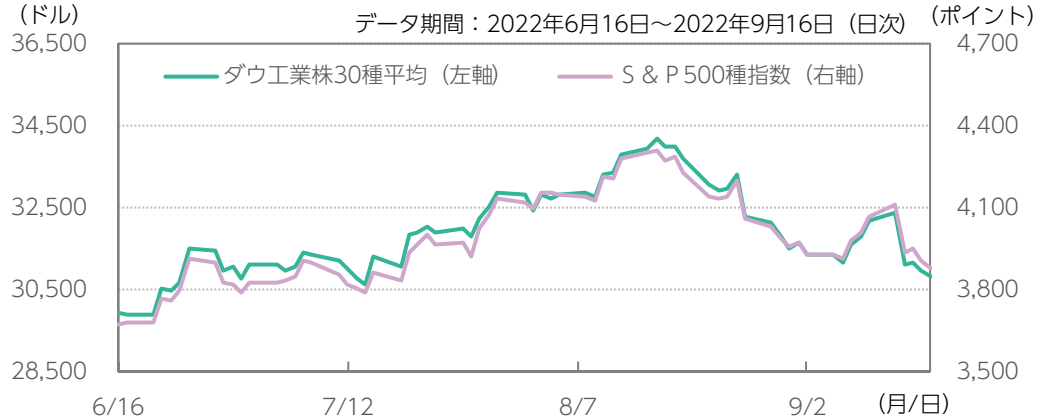
8月の米CPIが市場予想を上回る伸びとなり、FRBによる利上げが加速するとの観測から米長期金利が上昇した流れを受け、国内金利も上昇基調となったものの、日銀が現行の金融政策で許容する長期金利の変動幅の上限となる0.25%近辺では、買いも入りやすく（利回りは低下）、週間の上昇幅は限られました。

3）米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。

インフレがピークを付けたとのやや楽観的なムードが広がるなか、8月米CPIが市場予想を上回る伸びとなり、FRBによる大幅な利上げの継続とそれに伴う景気悪化懸念が改めて意識されると、13日（水）は1,200ドル超の大幅下落となりました。その後、大幅下落の反動から買い戻しの動きも見られたものの、FRBによる積極的な利上げへの警戒感は根強く、週末まで軟調な展開となりました。

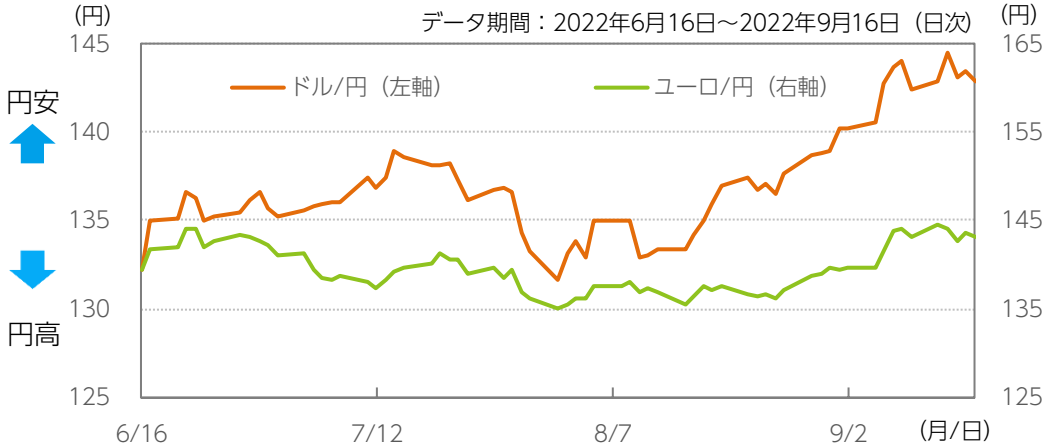


出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4）外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。

積極的な金融引き締めを続けるFRBと、大規模な金融緩和を続ける日銀との金融政策の方向性の違いが意識され、週を通じて円売り米ドル買いが優勢となりました。一方、日銀が急激な円安への警戒姿勢を強め、為替介入の準備のためレートチェックを実施したことを受け、円買い米ドル売りが進む場面もありました。



5）今週の見通しについて

先週の株式市場は、市場予想を上回る8月米CPIの結果を受け、日米両市場ともに下落しました。

13日（火）に米労働省が発表した8月のCPIは、前年同月比+8.3%と、7月の同+8.5%から低下したものの、市場予想（同＋8.1%）を上回りました。エネルギー価格の下落や、足元の賃金上昇の伸びにやや鈍化がみられ、インフレがピークを付けたとの見方も広がっていたため、予想外の結果を受け、株式市場は大幅下落となりました。

20－21日にFOMCを控え、今週前半は様子見ムードが高まりそうです。市場では3会合連続で0.75%の利上げが行われるとの見方が大勢を占めていますが、8月CPIの結果を受け、一部では1.00%の利上げを見込む声もみられます。FOMCを無難に通過すれば、株式市場に買い安心感が広がり、上昇が期待できそうですが、FRBが1.00%の利上げに踏み切ることとなれば、波乱の展開となりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/